活動 13

高等学校 総合

ハワイと日本の「食文化」今昔未来物語

Key words 文化の多様性、多様性の多様化、ミックスプレート

1 活用する主な展示および資料

●ハワイにある日本の「食文化」に関する展示および資料
●紙芝居「弁当からミックスプレートへ」など

2 教科・領域との関連性および総時間数

●総合的な探究の時間
●全５時間（事前２時間、見学２時間、事後１時間）

3 目標

●自分なりに考えている日本の「食文化」を表現するための根拠となる展示や資料を見学することを通して情報を取捨選択し、自分なりの解釈につなげようとしている。【知識・技能】
●日本の「食文化」を問い直すテーマに基づいた展示や資料を見学するプロセスを可視化したリフレクションを通して、自分なりのこれからの日本の「食文化」を表現している。【思考・判断・表現】
●自分が将来に残したいと感じている日本の「食文化」を選択しており、日本人移民の「食」に関する歴史からこれからの「日本の食」を捉えようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

【教材観】紙芝居「弁当からミックスプレートへ」を教材として採用する。視覚資料に触れることから学びを始めることで、知識の有無や立場などに捉われずに学習活動を進めることができる。紙芝居を観て、将来に残したいと感じた日系人の「食文化」の展示や資料の探究ができる契機となる。それぞれの生徒の視点から海外移住資料館を見学することを可能とする。

【単元設定の理由】「生徒が紙芝居を通じて感じたこと」を中心に単元設計をしていく。その中で「将来に残したい」と感じた日系人の「食文化」に気づき、生徒一人ひとりの考える「食文化」を引き出すことをねらいとする。目標にリニアに向かう工学的アプローチによる単元設計ではなく、それぞれの生徒の気づきに寄り添うことを重視し、教師が設定した目標を超えた学びがなされる可能性を想定しておく。

【資料館活用の視点】日系人の「食文化」の「正しい」把握のための展示や資料の活用ではなく、グローバル社会におけるそれぞれのエスニシティに基づいた文化の多様性の理解とそれぞれのエスニシティに基づいた文化の中にある多様化（文化の多様性の多様化）に着目し、生徒一人ひとりの「将来に残したい食文化」を表現するための根拠として活用できるように促す。この視点は、３F（Food、Fashion、Festival）のようなステレオタイプの文化理解を乗り越えることができる。

5　展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留　意　点
事前学習	**【単元を通して考え続ける問い】紙芝居「弁当からミックスプレートへ」を観て感じ、展示や資料を見学したプロセスから、あなた自身が将来に残したい日本の「食文化」は何か？**	
	1. あなたにとっての「日本の食」を考えよう！ 問．20 年後に残したい日本の「食文化」は何か。 ●「寿司」「天ぷら」「そば」「ラーメン」「カレー」など **2. 紙芝居「弁当からミックスプレートへ」を観てみよう！** 問１．この紙芝居を観て、どのような気持ちになったか。 ●「びっくり」「悲しい」「わくわく」「かわいそう」など 問２．気になった箇所から、今も残る「文化」・かたちは変わったが残っている「文化」・ハイブリッド化され、新しくなった「文化」など、どのような「文化」をイメージするか。 ●カリフォルニアロール、アロハシャツなど **3. 資料分析：「文化の多様性」「ハワイの日系人の食文化」** ●「ミックスプレート」「ロコ」「ハパ」など **4. 日本に関連する「今のハワイの食文化」を読み取ろう！**	●知っているか知らないかではなく、何を感じたのかを大切にできるように配慮する。 ●あらかじめ展示や資料を教材として選択・設定するのではなく、生徒の興味・関心に応じ、展示および資料を見学・探究するように促す。 ●フォトランゲージなどを活用して、資料の読み解きをするように配慮する。
資料館見　学	**1. 事前学習を踏まえて展示見学の仕方を考えよう！** ●事前学習から生徒が設定すると想定される「食文化」 ➡「ミックスプレート」「スキヤキ」「スパムむすび」など **2. 設定した「食文化」に基づいて見学するブースを選択し、見学したコーナーで考えたことから次のコーナーを見学するというように数珠つなぎで見学し、記録しよう！**	●生徒だけではなく、教師自身も自らの「食文化」を問い直し、展示見学をすることで、生徒一人ひとりの文化観と対話できるように構えておく。
事後学習	**1. 学びのプロセスを自分の表現で可視化しよう！** ●リフレクションで学びの前・中・後を可視化し、自分なりに問い直した日本の「食文化」を理解する。 **2.「単元を通して考え続ける問い」へ応答しよう！** ●展示や資料から得た情報を根拠として残したい日本の「食文化」を表現する。表現方法には、レポート、韻文と解説、イラストと解説などから表現したい方法を採用する。	●生徒一人ひとりが自分なりの「食文化」を紡ぐことができるように「問い」を共有する。 ●展示見学から得た情報を根拠にすることができるように促す。

6　学習後の姿

学びのプロセスを通じて、「将来残したい」と感じた日本の「食文化」を考え、文化の多様性の多様化・文化のハイブリディティ、遠い地域での文化の継承などについて、それぞれの生徒が考えた結果を表現することができている。そのための表現方法は、論理的な文章表現、直観的な韻文（叙事詩、俳句、短歌、漢字1文字など）と解説、言語表現以外のイラスト表現と解説など、自身が考えたことを一番表現できると判断したものを選択する。また、表現したことを生徒同士で共有することで学びを深める。

7　授業づくりのための参考資料

●大津和子編著（2014）『日韓中でつくる国際理解教育』明石書店